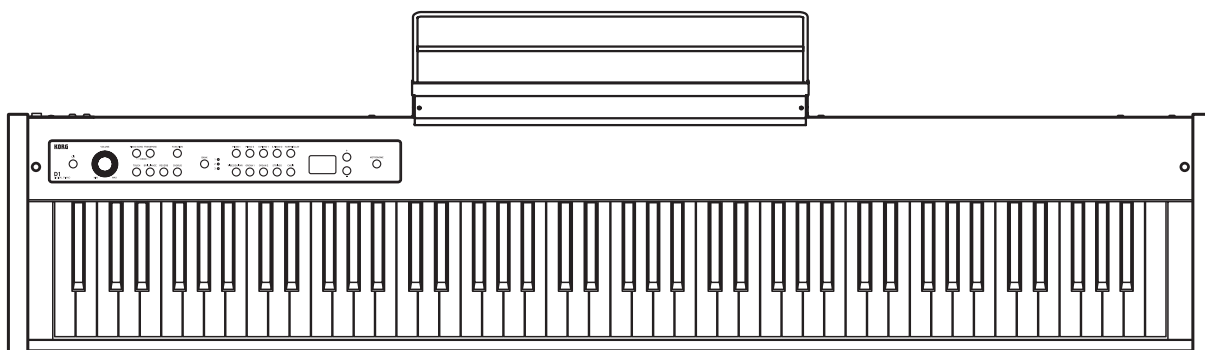


# D1

## DIGITAL PIANO



このたびは、コルグ デジタル・ピアノ D1 をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品を末永くご愛用いただくためにも、取扱説明書をよくお読みになって、正しい方法でご使用ください。

**取扱説明書**

**KORG**




# 安全上のご注意

## ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

## 火災・感電・人身障害の危険を防止するには

### 図記号の例

	△記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は一般的な注意、警告、危険を表しています。
	⊘記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

## 以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近において、お子さまから専門家の方まで幅広くご愛用いただけます。デジタル・ピアノは大きくて非常に重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での設置場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。また、設置や移動の際は必ず2人で行ってください。小さなお子様がご使用になる場合は、ご家族の方が最初に教えてあげてください。

## 警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性があります。

- ACアダプターの電源コードのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- ACアダプターの電源コードのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。  
感電やショートのおそれがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、電源コードのプラグへ容易に手が届くようにする。
- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源コードのプラグをコンセントから抜く。
  - ACアダプター、電源コードやプラグが破損したとき
  - 異物が内部に入ったとき
  - 製品に異常や故障が生じたとき修理が必要なときは、お客様相談窓口へ依頼してください。
- 本製品を分解したり改造したりしない。
- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。
- ACアダプターのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけたりしない。また、ACアダプターのコードの上に重いものをのせない。  
コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。  
大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。

- 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管をしない。
- 振動の多い場所で使用や保管をしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管をしない。
- 風呂場、シャワー室で使用や保管をしない。
- 雨天時の野外のように、湿気が多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管をしない。
- 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
- 本製品に液体をこぼさない。
- 濡れた手で本製品を使用しない。

## 注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります。

- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。  
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- ACアダプターの電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。
- 本製品の移動時は、必ず2人以上で持ち上げる。
- 長時間使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜く。
- 付属のACアダプターや電源コードは他の電気機器で使用しない。  
付属のACアダプターや電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。  
本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。  
故障の原因になります。
- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。
- 不安定な場所に置かない。  
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。
- 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。  
本製品が転倒または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。
- 本製品の隙間に指などを入れない。  
お客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。
- 地震時は本製品に近づかない。
- 本製品に前後方向から無理な力を加えない。  
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。

\* すべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

### 演奏を楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

# 目次

はじめに	3
おもな特長	3
各部の名称とその機能	4
準備と自動演奏	5
演奏する前の準備	5
自動演奏を聴く	7
弾いてみましょう	8
音色を選ぶ(シングル・モード)	8
2つの音色を重ねて演奏する(レイヤー・モード)	8
ダンパー・ペダルを使う	9
エフェクト	9
メトロノーム	9
その他の機能	11
鍵盤タッチ・コントロールの設定	11
トランスポーズ	11
ファンクション・モード	11
MIDI	14
MIDI(ミディ)とは?	14
MIDIでなにができるの?	14
MIDIの接続	14
MIDIファンクション・モード	14
付録	16
故障かな?とお思いになる前に	16
仕様	16
キーボード・スタンドST-SV1(別売)を使用する場合	17
MIDIインプリメンテーション・チャート	18

# はじめに

## おもな特長

### 30種類の高品位サウンド

ステレオ・コンサート・グランド・ピアノを含む、表現力豊かな高品質の音色を、30種類内蔵しています。また、同時に2つの音を重ねて演奏できるレイヤー・モードも搭載しています。

### エフェクト

音色の明るさを調整できるブリリアンス、コンサート・ホールの自然な雰囲気やシミュレーションすることができるリバーブや、音の広がりを加えることができるコーラスの、3つのエフェクトを搭載しています。

### メトロノーム

拍子、テンポ、音量を変えることができ、さらにアクセント音にベル音を使用できるメトロノームを内蔵しています。

### タッチ・コントロール機能

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを、5種類の中から選択できます。

### 音律

平均律の他に、純正律(長調、短調)、古典音律(キルンベルガー、ヴェルクマイスター)、中東やインドの民族音楽で使われている音律など、9つの音律から選択することによって、幅広い音楽の再現も可能になります。また、音色にアコースティック・ピアノを選んだときは、ストレッチ・チューニングが自動的に選ばれます。

### 音の高さの調節

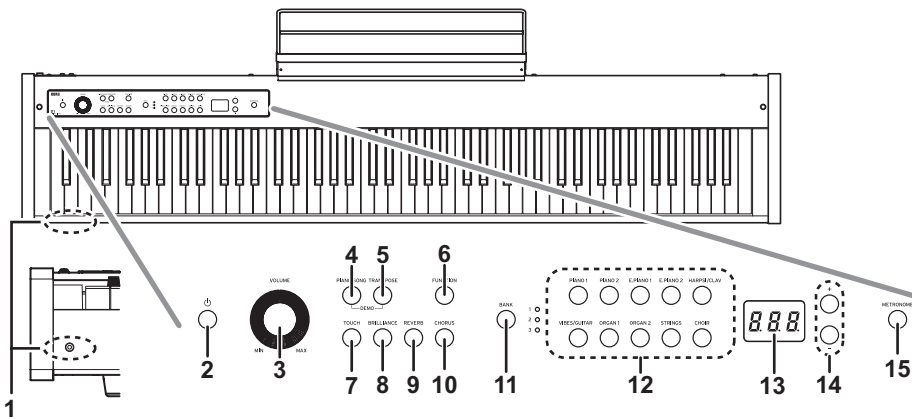
トランスポーズ機能により移調を、ピッチ・コントロール機能により音の高さの微調整を行うことができます。

### MIDIの装備

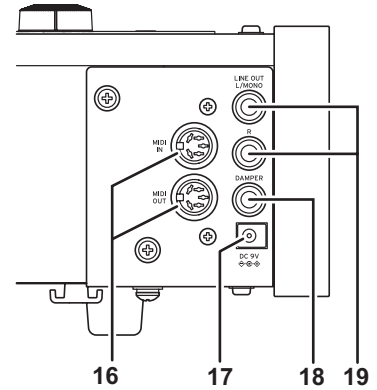
電子楽器やコンピューターの間で、演奏情報のやりとりを行う統一規格MIDIを装備しています。MIDIを使うと、接続した機器間で相互にコントロールすることができ、本機を16パート・マルチ・ティンバー音源としても使用することができます。

# 各部の名称とその機能

## コントロール・パネル



## リア・パネル



1. **ヘッドホン端子：**  
ステレオ・ミニ・プラグのヘッドホンを接続することができます。
2. **電源ボタン：**  
押すたびに電源が入る、切るを繰り返します。
3. **VOLUMEツマミ：**  
ヘッドホン端子、およびLINE OUT端子からの音量をコントロールします。
4. **PIANO SONGボタン：**  
ピアノ・ソング演奏に入ります。このときボタンが点灯します。TRANSPOSEボタンと一緒に押すと、音色デモ演奏に入ります。
5. **TRANSPOSEボタン：**  
移調するときに使います。移調中はボタンが点灯します。PIANO SONGボタンと一緒に押したときは、音色デモ演奏に入ります。
6. **FUNCTIONボタン：**  
ピッチ、音律などの設定を行うファンクション・モードに入ります。長押ししたときは、MIDI関連の設定を行うMIDIファンクション・モードに入ります。ファンクション・モードのときはボタンが点灯し、MIDIファンクション・モードのときはボタンが点滅します。
7. **TOUCHボタン：**  
鍵盤のタッチ(感度)を選びます。
8. **BRILLIANCEボタン：**  
音の明るさを選びます。
9. **REVERBボタン：**  
音に残響を加えるリバーブをオン、オフします。オンにするとボタンが点灯します。
10. **CHORUSボタン：**  
音に広がりを与えるコーラスをオン、オフします。オンにするとボタンが点灯します。
11. **BANKボタン、LED：**  
使用する音色のバンクを選びます。現在選んでいるバンクのLEDが点灯します。
12. **音色ボタン：**  
30(10×3バンク)音色から選択します。同時に2つの音色で演奏(レイヤー・モード)することもできます。
13. **ディスプレイ：**  
ファンクション・モード時やメトロノームなどの設定を表示します。
14. **+、-ボタン：**  
各種設定の値を選びます。
15. **METRONOMEボタン：**  
メトロノームをスタート、ストップします。メトロノーム使用中はボタンが点灯します。また、長押ししたときは、メトロノームの各種設定をするメトロノーム設定モードに入ります。
16. **MIDI(IN、OUT)端子：**  
他のMIDI機器(シーケンサー、キーボードなど)を接続するときを使用します。  
**IN：** MIDI情報を受信します。  
(本機をコントロールする外部MIDI機器のMIDI OUT端子と接続します)  
**OUT：** MIDI情報を送信します。  
(本機からコントロールする外部MIDI機器のMIDI IN端子と接続します)
17. **DC 9V端子：**  
付属のACアダプターのDCプラグを接続します。
18. **DAMPER端子：**  
付属のダンパー・ペダルや別売りのダンパー・ペダルDS-1Hを接続します。
19. **LINE OUT(L/MONO、R)端子：**  
音声の出力端子です。標準フォーン・ジャックのオーディオ・コードで、アンプ付きスピーカーの入力端子や音響機器のAUX INなどに接続してください。LINE OUT端子の出力音量はVOLUMEツマミで調整してください。

# 準備と自動演奏

## 演奏する前の準備

### スタンドについて

本機にスタンドは付属していません。オプションのキーボード・スタンドST-SV1(別売)をご使用になる場合はp.17を参照してください。

### 付属のACアダプターの接続

ACアダプターのDCプラグをリア・パネルのDC 9V端子に接続し、ACアダプターのプラグを電源コンセントに接続します。

- ▲ ACアダプターのコードを必ずコード・フックに引っかけてください(図1)。コードをフックから外すときは、無理に引っ張らないでください。プラグ破損の原因になります。
- ▲ ACアダプターは必ず付属のものをお使いください。他のACアダプターを使用した場合、故障などの原因となります。
- ▲ 電源は必ずAC100Vを使用してください。

### 音響機器、ヘッドホンを接続する

本機はスピーカーを内蔵していません。音を出して演奏をお楽しみいただくためには、LINE OUT端子にモニター・アンプ、ミキサーやステレオ・セットなどの音響機器を接続するか、ヘッドホン端子にヘッドホンをご接続してください。

- ▲ 各接続は必ず本機、および接続機器の電源を切った状態で行ってください。不注意な操作を行うと、本機や接続した機器等を破損したり、誤動作を起こす原因となりますので十分に注意してください。
- ▲ 接続するオーディオ・コードは別売品です。接続する機器に合わせて市販品をお求めください。

### モニター・アンプやミキサーを使うときは

モニター・アンプやミキサーを接続する場合、LINE OUT端子を使用します。モニター・アンプや音響機器等の入力端子に、オーディオ・コードを差し込み接続してください。

- ▲ 本機のオーディオ出力は、CDプレーヤーなどの一般的な家庭用音響機器よりも高い信号レベルに設定されています。そのため、過大な音量で演奏するとスピーカーや機器を破損することがあります。音量には十分ご注意ください。

1. 接続するすべての機器の音量を絞ってから、電源を切ります。
2. 本機のLINE OUT端子をモニター・アンプやミキサーなどのINPUT端子へ接続します。

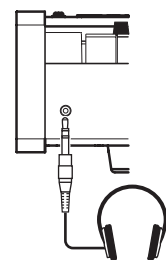
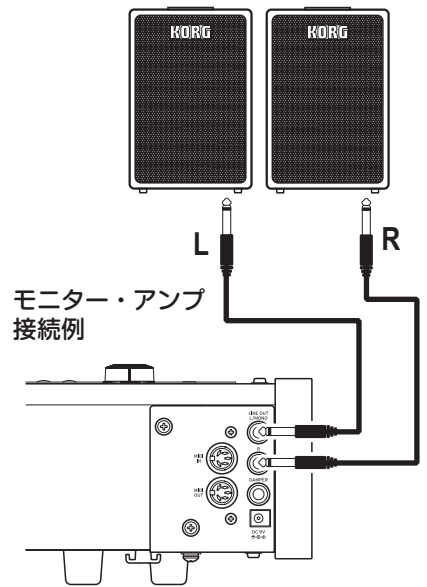
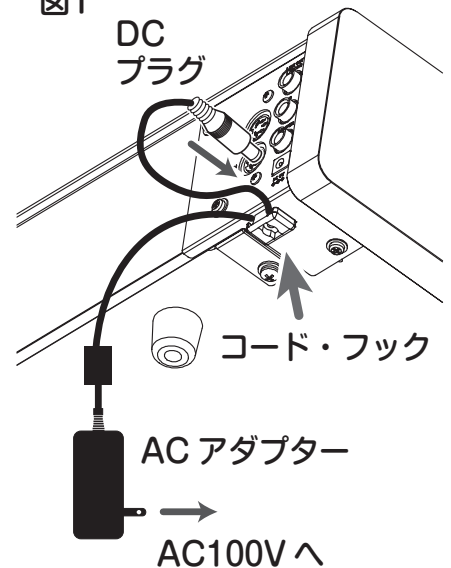
オーディオ・ステレオ・アンプや外部入力端子のあるオーディオ・プレーヤーなどで再生するときは、LINE INまたはAUX IN、外部入力と書かれている端子に接続してください(必要に応じてプラグ変換アダプター・ケーブルなどをご用意ください)。

### ヘッドホンを使うときは

ヘッドホンをご接続する場合、ヘッドホン端子を使用します。ステレオ・ヘッドホンは、ステレオ・ミニ・プラグのものをお使いください。夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときはヘッドホンをお使いください。

- ▲ ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量で長い時間聴かないでください。

図1



## 電源を入れる

電源ボタンを押して、本体の電源を入れます(図2)。

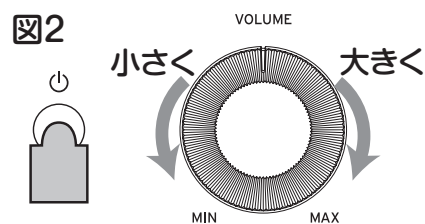
電源を入れると、コントロール・パネルの音色ボタンが点灯します(電源ボタンは点灯しません)。

電源を切るときは、もう一度電源ボタンを押してください。

⚠ 電源を切ると、オート・パワー・オフ機能の設定以外は工場出荷時の設定(初期設定)に戻ります。

### オート・パワー・オフ機能について

本機は4時間以上鍵盤を弾かない場合や、自動演奏を再生していない場合に、自動的に電源が切れます。この機能を解除する場合は、オート・パワー・オフの設定(→p.13)をオフにしてください。



## 音量の調節

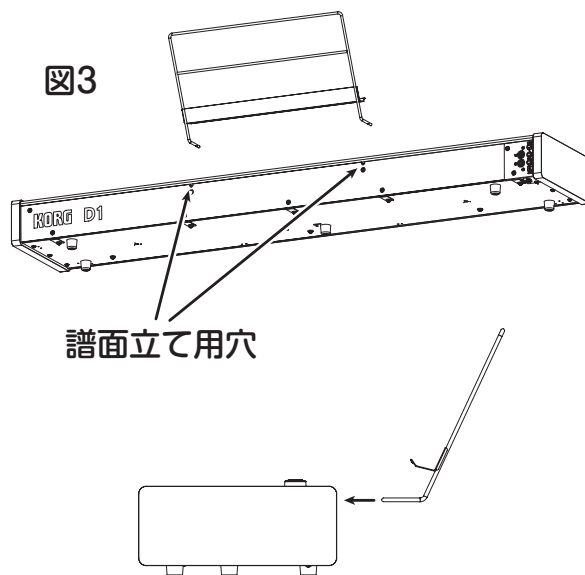
VOLUMEツマミを動かして音量を調整します(図2)。

音量を小さくするときは左側(MIN)へ、大きくするときは右側(MAX)へツマミを回します。ヘッドホン端子、およびLINE OUT端子の音量を調整できます。

⚠ VOLUMEツマミはMINの位置から徐々に音量を上げてください。


## 譜面立てを使うときは


付属の譜面立ては図3のように取り付けます。



## 自動演奏を聴く

本機には、高品位な10種類の音色を使った音色デモ・ソングが10曲と、ピアノ音色を使い、なじみのあるピアノ曲などをあつかったピアノ・ソングが20曲、合計30曲の自動演奏が入っています。

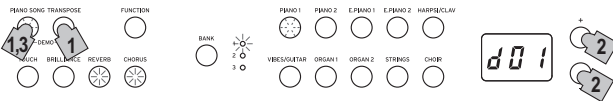
 音色デモ・ソングの演奏中に鍵盤を弾いて音色を出すことはできますが、音色ボタンで本機の音色を変えることはできません。

 音色デモ・ソングの演奏中はエフェクト(リバーブ、コーラス)の設定を変えることはできません。

## 音色デモ・ソングを聴く

1. PIANO SONGボタンとTRANSPOSEボタンを同時に押します。

PIANO SONGボタンが点滅して、音色ボタンが順番に点滅します。このときディスプレイに音色デモ・ソング番号が表示(d01)されます。



2. 約3秒後、PIANO1ボタンが点滅に変わり、音色デモ・ソングの演奏が始まります。

PIANO1の音色デモ・ソングの演奏が終わるとPIANO2、E.PIANO1と順番に演奏が続き、CHOIRの演奏が終わると、再びPIANO1から演奏を始めます。

### 任意の音色デモ・ソングを聴くときは

音色ボタンが順番に点滅しているときに、聞きたい音色ボタンを押します。演奏途中でも、聞きたい音色ボタンを押すと数秒後に音色デモ・ソングが切り替わります。なお、ディスプレイ横の+、-ボタンで音色デモ・ソングを選ぶこともできます。

3. 音色デモ・ソングの演奏を止めるときは、PIANO SONGボタンをもう一度押します。

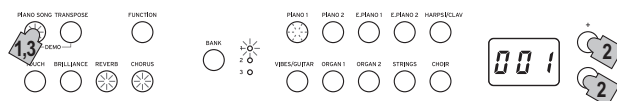
## 音色デモ・ソング・リスト

表示	音色ボタン	曲名	作者
d01	PIANO1	ポロディン風に	M.ラヴェル
d02	PIANO2	Someone To Watch Over Me	G.ガーシュウィン
d03	E.PIANO1	Jam Session	Naoki Nishi
d04	E.PIANO2	In Memory	Michael Geisel
d05	HARPSI/CLAV	上きげん	J.P.ラモー
d06	VIBES/GUITAR	Jazz in Spain	KORGオリジナル
d07	ORGAN1	Improvisation	Michael Geisel
d08	ORGAN2	プレリユードとフーガBWV 553 より	J.S.バッハ
d09	STRINGS	Scoring Interlude	Michael Geisel
d10	CHOIR	Autumn Flares	Michael Geisel

## ピアノ・ソングを聴く

1. PIANO SONGボタンを押します。

PIANO SONGボタンとPIANO1ボタンが点灯し、ディスプレイにピアノ・ソング番号(001)が表示されます。



2. 約3秒後、PIANO1ボタンが点滅に変わり、ピアノ・ソングの演奏が始まります。

1番のピアノ・ソングの演奏が終わると2番、3番と順番に演奏が続き、20番の演奏が終わると、再び1番から演奏を始めます。

### 任意のピアノ・ソングを聴くときは

聞きたいピアノ・ソングの番号をディスプレイ横の+、-ボタンで選びます。演奏途中でも、同様に+、-ボタンで番号を選ぶと数秒後にピアノ・ソングが切り替わります。

3. ピアノ・ソングの演奏を止めるときは、PIANO SONGボタンをもう一度押します。

## ピアノ・ソング・リスト

番号	表示	曲名	作者
1	001	革命のエチュード	F.ショパン
2	002	月の光	C.ドビュッシー
3	003	幻想即興曲 Op.66	F.ショパン
4	004	ワルツ第6番変二長調 「小犬」Op.64-1	F.ショパン
5	005	プレリユード (平均律第1巻 第1番より)	J.S.バッハ
6	006	トルコ行進曲 (ソナタ K.331より)	W.A.モーツァルト
7	007	アラベスク第1番	C.ドビュッシー
8	008	エリーゼのために	L.v.ベートーヴェン
9	009	愛の夢 第3番	F.リスト
10	010	カンパネラ	F.リスト
11	011	ノクターン 第2番 Op.9-2	F.ショパン
12	012	春の歌 Op.62-6	F.メンデルスゾーン
13	013	水の反映	C.ドビュッシー
14	014	ジムノペディ第1番	E.サティ
15	015	別れの曲 Op.10-3	F.ショパン
16	016	Old Feather Blues	KORGオリジナル
17	017	亜麻色の髪の乙女	C.ドビュッシー
18	018	エンターティナー	S.ジョプリン
19	019	Sunflowers	KORGオリジナル
20	020	アメイジング・グレイス	賛美歌

# 弾いてみましょう

## 音色を選ぶ(シングル・モード)

本機は高品位な音色を30(10×3バンク)種類の中から選ぶことができます。

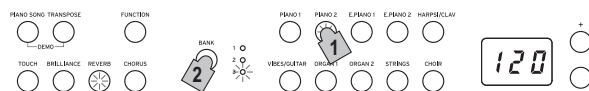
音色ボタン	バンク	音色名	#
PIANO1	1	コンサート・ピアノ	3
	2	グランド・ピアノ	3
	3	ポップ・ピアノ	2
PIANO2	1	ジャズ・ピアノ	3
	2	ホンキートンク・ピアノ	2
	3	エレクトリック・グランド・ピアノ	1
E.PIANO1	1	ステージ・エレクトリック・ピアノ	1
	2	ブライツ・エレクトリック・ピアノ	2
	3	トレモロ・エレクトリック・ピアノ	1
E.PIANO2	1	デジタル・エレクトリック・ピアノ1	2
	2	デジタル・エレクトリック・ピアノ2	2
	3	60's エレクトリック・ピアノ	1
HARPSI/ CLAV	1	ハープシコード	2
	2	クラビ	1
	3	シン・クラビ	2
VIBES/ GUITAR	1	ビブラフォン	1
	2	マリンバ	1
	3	アコースティック・ギター	2
ORGAN1	1	ジャズ・オルガン1	2
	2	ジャズ・オルガン2	2
	3	ジャズ・オルガン3	2
ORGAN2	1	パイプ・オルガン1	2
	2	パイプ・オルガン2	2
	3	ポジティブ・オルガン	2
STRINGS	1	ストリングス	2
	2	シネマ・ストリングス	2
	3	アナログ・ストリングス	2
CHOIR	1	クワイア Aah	2
	2	ボイス Ooh	2
	3	クラシカル・クワイア	3

#は音色が使用しているオシレーターの数(16ページの「最大発音数について」参照)

- 弾きたい音色の音色ボタンを1つ選びます。  
選んだボタンが点灯します。
- BANKボタンを押して3種類の中から音色を選びます。  
押すたびにBANKボタンの右のLEDが上から順に点灯し、1、2、3、1...とバンク(音色)が切り替わります。  
たとえば、エレクトリック・グランド・ピアノの音色を

選ぶには、音色ボタンのPIANO2を押してボタンを点灯させます。そのあとBANKボタンを2回押してバンク3(エレクトリック・グランド・ピアノ)を選びBANKボタンの右下のLEDを点灯させます。

なお、それぞれの音色ボタンで選んだバンクは、他の音色に切り替えても記憶されます。

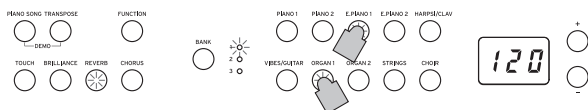


電源を入れるたびに、各音色ボタンはバンク1の音色が選択されます。

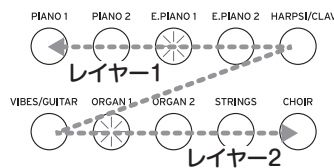
## 2つの音色を重ねて演奏する(レイヤー・モード)

2つの音色を重ねた音で演奏することができます。これを、レイヤー・モードと呼びます。

重ねる音色の音色ボタンを2つ同時に押してください。選ばれた2つの音色のボタンが点灯します。



選んだ2つの音色のボタンの位置関係が左側で上段にあるほうがレイヤー1、他方がレイヤー2になります(下図参照)。



たとえば、E.PIANO1とORGAN1を選んだ場合は、E.PIANO1がレイヤー1、ORGAN1がレイヤー2になります。また、バンクを変えた音色を使うときは、シングル・モードで各音色ボタンを押したときのバンク(音色)を前もって選んでください。

たとえば、グランド・ピアノとジャズ・オルガン2の音色を重ねて演奏するときは、PIANO1にはバンク2(グランド・ピアノ)を、またORGAN1にはバンク2(ジャズ・オルガン2)を選んだ後、両方のボタンを同時に押してください。

レイヤー・モードを選ぶと、選んだ音色のオシレーター数によって同時発音数が制限されます(16ページの「最大発音数について」参照)。

同じ音色ボタンに割り振られたバンクが違う音色(PIANO1のコンサート・ピアノとグランド・ピアノなど)を選ぶことはできません。

## シングル・モードに戻るには

音色ボタンで1つだけ音色を選ぶとシングル・モードに戻ります。

## レイヤー・モードの各種設定

レイヤー・モードでは音色間の音量バランスをとったり、音色ごとにオクターブをずらしたり、音色ごとのダンパー・ペダルの有効、無効を設定できます(11ページの「ファンクション・モード」参照)。



## ダンパー・ペダルを使う

演奏をより効果的に表現することができます。

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。また、コンサート・ピアノ、グランド・ピアノ、ジャズ・ピアノ音色(Piano1のバンク1と2、Piano2のバンク1)ではダンパー・レゾナンス音が追加されます。なお、別売りのダンパー・ペダルDS-1Hを使用すると、ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます(ハーフ・ペダル効果)。

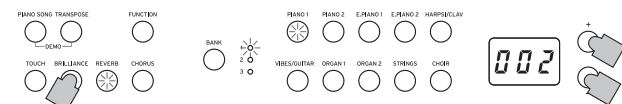
**MEMO** レイヤー・モードでは、ダンパーの効果をどちらかの音色だけにすることもできます(12ページの「レイヤー・モードのペダル設定」参照)。

## エフェクト

### ブリリアンス

音色の明るさを変えるエフェクトです。

BRILLIANCEボタンを押しながら、ディスプレイ横の+、-ボタンを押すことで設定を変更します。



設定はディスプレイに表示され、音色は3にするとより明るく、1にするとやや控えめの明るさになります。

設定はすべての音色に共通で電源を切るまで維持されますが、電源を入れると2の標準設定になります。

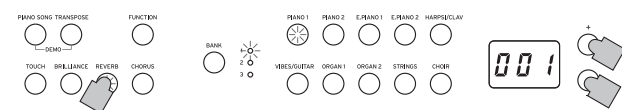
**▲** ブリリアンスはオフにできません。

### リバーブ

音に残響と深みを加え、コンサート・ホールで演奏しているような臨場感のあるサウンドにするエフェクトです。工場出荷時は音色ごとにオン、オフや設定が記憶されています。

REVERBボタンを押すたびにリバーブのオン(ボタン点灯)、オフ(ボタン消灯)を繰り返します。

設定の変更をするときは、REVERBボタンを押しながら、ディスプレイ横の+、-ボタンを押します。



設定はディスプレイに表示され、3にするとリバーブの効果が深く、1にするとリバーブの効果が浅くなります。

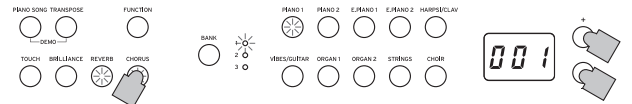
ここでのオン、オフや設定は、音色を切り替えたり、電源を切ると工場出荷時の状態(初期設定)に戻ります。

### コーラス

コーラスは、音色にうねりを加え、広がりのある豊かなサウンドにします。工場出荷時は音色ごとにオン、オフや設定が記憶されています。

CHORUSボタンを押すたびにコーラスのオン(ボタン点灯)、オフ(ボタン消灯)を繰り返します。

設定の変更をするときは、CHORUSボタンを押しながら、ディスプレイ横の+、-ボタンを押します。



設定はディスプレイに表示され、音色は3にするとコーラスの効果が深く、1にするとコーラスの効果が浅くなります。

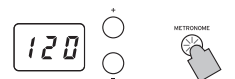
ここでのオン、オフの設定は、音色を切り替えたり、電源を切ると工場出荷時の状態(初期設定)に戻ります。

## メトロノーム

練習に便利なベル音や音量などを変えることができるメトロノームを内蔵しています。

### メトロノームのオン、オフ

METRONOMEボタンを押すと、ボタンが点灯しメトロノームがスタートします。メトロノームを止めるときは、もう一度METRONOMEボタンを押してボタンを消灯します。



### テンポの設定

メトロノームのテンポは、メトロノームのオン、オフに関係なく、ディスプレイにテンポの値が表示(初期設定は120)されているときに、ディスプレイ横の+、-ボタンで設定できます(テンポはメトロノーム設定モードでも設定できます)。なお、設定範囲は♩ = 40 ~ 240です。

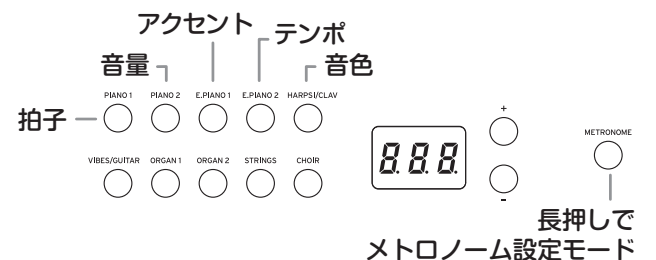
初期設定に戻すときは+、-ボタンを同時に押します。



### 拍子、音量、アクセント、テンポ、音色の設定

メトロノーム設定モードで、メトロノームの各設定を行います。

1. METRONOMEボタンを長押しして、メトロノーム設定モードに入ります。  
METRONOMEボタンが点滅します。
2. 設定したい機能が割り当てられたボタンを押します。  
ディスプレイに値が表示されます。



設定(ボタン)	範囲	初期設定
拍子(PIANO1)	02(2/4)、03(3/4)、04(4/4)、06(6/4)	04
音量(PIANO2)	01 ~ 13	10
アクセント(E.PIANO1)	oFF(アクセントなし)、on1(強拍が強調音)、on2(強拍がベル音)	oFF
テンポ(E.PIANO2)	40 ~ 240 (テンポの設定と同じ)	120
音色(HARPSI/CLAV)	1(アコースティック)、2(電子音)	1



**3. +、-ボタンで設定します。**

以下の設定は、+、-ボタンを同時に押すと初期設定に戻ります。

- 音量
- テンポ
- 音色

**4. 設定が終わったらMETRONOMEボタンを押して、メトロノーム設定モードから抜けます。**

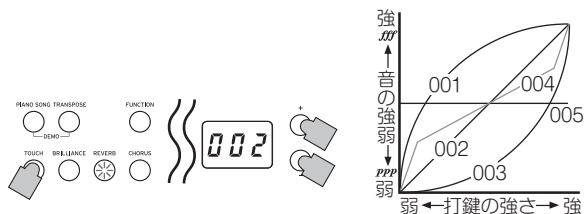
メトロノーム設定モードから抜けると、メトロノーム設定モードに入る前のMETRONOMEボタンの状態(点灯または消灯)に戻ります。

# その他の機能

## 鍵盤タッチ・コントロールの設定

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。

設定を変えるときは、TOUCHボタンを押しながら、ディスプレイの横の+、-ボタンを押して設定します。



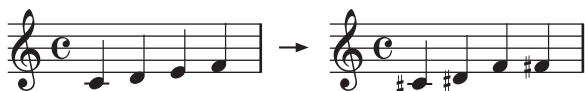
表示	タッチ・コントロールの設定
001	軽め、弱く弾いても強音が出せるタッチ
002	標準、普通のピアノ・タッチ
003	重め、強く弾かないと強音が出せないタッチ
004	強弱のばらつきを抑え、比較的安定したタッチ
005	弾く強さに関係なくオルガンのように常に一定の音が出せるタッチ

電源をオフにすると2(標準)の設定に戻ります。

全音色共通の設定になります。

## トランスポーズ

キーを変える(移調する)ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで、他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。11半音の範囲ですらすらことができ、1半音上げた場合、下図の左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。



電源をオフにするとトランスポーズは解除されます。

TRANSPOSEボタンを押しながら、F#6 ~ F7中から移調するキーの鍵盤を押します。

C7以外の鍵盤を押えるとTRANSPOSEボタンが点灯し、トランスポーズされたことを示します。

押さえた鍵盤の音の高さがC7の位置に対応するように、鍵盤全体の音の高さが移調します。

もとの設定に戻すときは、TRANSPOSEボタンを押しながら、C7の鍵盤を押します。このとき、TRANSPOSEボタンが消灯し、トランスポーズが解除されます。



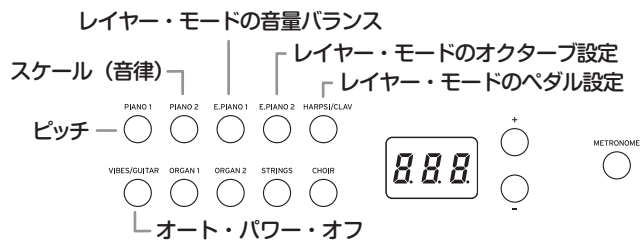
鍵盤	キーの高さ
F#6 ~ B6	6 ~ 1半音下げる
C7	標準(トランスポーズなし)
C#7 ~ F7	1 ~ 5半音上げる

## ファンクション・モード

ここまでで設定していないピッチや音律設定などをする場合は、ファンクション・モードで行います。

### ファンクション・モードでの各種機能の設定手順

1. FUNCTIONボタンを押します。  
FUNCTIONボタンとPIANO1ボタンが点灯します。
2. 下図のボタンを押して設定を選びます。  
このとき押したボタンが点灯してディスプレイに現在値が表示されます。



3. +、-ボタンで値を選びます。  
以下の設定は、+、-ボタンを同時に押すと初期設定に戻ります。
    - ・ピッチ
    - ・レイヤー・モードの音量バランス
    - ・レイヤー・モードのオクターブ設定
  4. 設定が終わったらFUNCTIONボタンを押して、演奏できる状態に戻ります。  
このとき、FUNCTIONボタンが消灯します。
- 電源をオフにすると初期設定に戻ります。

ファンクション一覧表

ボタン	機能	設定表示
	意味 [初期設定]	
PIANO1	ピッチ	27.5 ~ 52.5
	427.5 ~ 440.0 ~ 452.5Hz [40.0 : 440.0Hz] 他の楽器と合奏するときなどに、楽器間の微妙なピッチのずれを0.5Hz単位で調整します。 基準ピッチはA=440Hzで、初期設定は40.0です。	
PIANO2	スケール(音律)*1	00 ~ 08
	平均律~ペログ音階 [00 : 平均律]	
	平均律、キルンベルガーやヴェルクマイスターなど9種類の音律が選択できます。	
E.PIANO1	レイヤー・モードの音量バランス	1-9 ~ 9-1
	1-9(レイヤー 1最小) ~ 9-9(両方最大) ~ 9-1(レイヤー 2最小) [9-9]	
	レイヤー 1とレイヤー 2の音色の音量バランスを調整します。 調整範囲は1-9...9-9...9-1で、レイヤー 1が左の値、レイヤー 2が右の値になります。	
E.PIANO2	レイヤー・モードのオクターブ設定(L1、L2)*2	-01、00、01
	±1オクターブ [00]	
	レイヤー 1とレイヤー 2の音色の発音音域を設定します。 調整範囲は各音色±1オクターブで表示は-01、00、01になります。	
HARPSI/ CLAV	レイヤー・モードのペダル設定	0-、_0、0-0
	レイヤー 1のみ、レイヤー 2のみ、両方 [0-0]	
	ダンパー効果を有効にするレイヤーを選択します。 設定はレイヤー 1の音色のみ(0-0)、レイヤー 2の音色のみ(0-0)、両方の音色(0-0)の3種類です。	
VIBES/ GUITAR	オート・パワー・オフ *3	oFF、on
	オフ(無効)、オン(4時間) [on]	

機能の追加説明

\*1:スケール(音律)

音律の種類

表示	音律
00	<b>平均律(初期設定)</b> :一般的に広く使われている音律で、各半音のピッチの変化幅が同じになっています。
01	<b>純正律[長調]</b> :主調和音(C)のメジャー・コードが完全に調和する音階です。
02	<b>純正律[短調]</b> :主調和音(C)のマイナー・コードが完全に調和する音階です。
03	<b>アラビック</b> :アラビア音楽の1/4トーン・スケールを含む音階です。
04	<b>ピタゴラス</b> :古代ギリシャの音階で、特にメロディー演奏に効果的です。5度は純正ですが、その他の音程、特に長3度が純正ではありません。
05	<b>ヴェルクマイスター</b> :ヴェルクマイスター IIIスケールです。これはバロック時代後期に比較的自由的な移調を目的として考案されたものです。
06	<b>キルンベルガー</b> :キルンベルガー IIIスケールです。これは主にハーブシコードのチューニングに使用されます。
07	<b>スレンドロ音階</b> :1オクターブを5音で構成するインドネシアのガムラン音階です。
08	<b>ペログ音階</b> :1オクターブを7音で構成するインドネシアのガムラン音階です。


ストレッチ・チューニングについて

PIANO1、PIANO2の音色は、ストレッチ・チューニングを用いています。ストレッチ・チューニングは、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高くピッチを調整したものです。これは、アコースティック・ピアノが通常調律される方法です。

\*2:レイヤー・モードのオクターブ設定(L1、L2)

1. ディスプレイ横の+、-ボタンでレイヤーを切り替えます。  
レイヤー 1はL1、レイヤー 2はL2と表示されます。
2. BANKボタンを押します。  
ディスプレイにオクターブの設定(00)が表示されます。
3. ディスプレイ横の+、-ボタンでオクターブの値を設定します。  
初期設定に戻すときは+、-ボタンを同時に押します。

続けてもう片方のレイヤーのオクターブを設定するときは、E.PIANO2ボタンを押して、レイヤーを選び直します。

 音色がシングル・モードのときは表示が---となり設定できません。

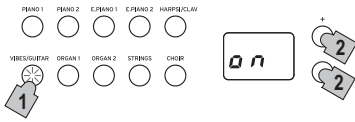
### \*3: オート・パワー・オフの設定

本機は4時間以上鍵盤を弾かない場合や、自動演奏を再生していない場合に、自動的に電源が切れます。この設定はオフ(oFF)にして解除することができます。初期設定はオンですが、設定は選択した時点で記憶され、電源を切っても設定は保持されます。

1. ファンクション・モードに入り、VIBES/GUITARボタンを押します。

音色ボタンのVIBES/GUITARボタンが点灯し、ディスプレイに設定(on)が表示されます。

2. ディスプレイ横の+、-ボタンでオン、オフを選択します。



# MIDI

## MIDI(ミディ)とは？

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) は、電子楽器やコンピューターの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。

## MIDIでなにができるの？

MIDIを利用すると本機から他のMIDI機器をコントロールしたり、他のMIDI機器から本機の音源を鳴らしたりすることができます。また、シーケンサーや複数のMIDI機器を組み合わせることで、複雑なアンサンブルを楽しむことができます。

## MIDIの接続

MIDI情報をやりとりするには、MIDIケーブル(別売)を使います。このケーブルを、本機のMIDI端子と情報をやりとりする外部MIDI機器のMIDI端子に接続します。このMIDI端子は2種類あります。

### MIDI IN

MIDI情報を受信します。外部MIDI機器(MIDIキーボードやシーケンサーなど)で、本機の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。

本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子をMIDIケーブルで接続します。

### MIDI OUT

MIDI情報を送信します。本機の鍵盤を弾いたときに出力されるMIDI情報で、外部MIDI機器の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。

本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続します。

## MIDIファンクション・モード

電源をオンにしたときは、本機のMIDIパラメータが送信チャンネル1、受信チャンネルすべて受信(1-16)、ローカル・オン、オムニ・オフになっています。

これらの設定を変更するときは、MIDIファンクション・モードで設定変更を行います。

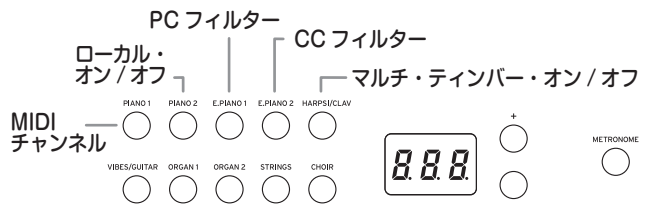
## MIDIファンクション・モードでの各種機能の設定手順

### 1. FUNCTIONボタンを長押し(3秒程度)します。

FUNCTIONボタンが点滅、PIANO1ボタンが点灯します。

### 2. 下図のボタンを押して設定を選びます。

このとき押したボタンが点灯してディスプレイに現在値が表示されます。



### 3. +、-ボタンで値を選びます。

### 4. 設定が終わったらFUNCTIONボタンを押して、演奏できる状態に戻します。

このとき、FUNCTIONボタンが消灯します。

⚠ MIDI設定はすべての音色で共通の設定になります。

⚠ 各パラメーターの設定は、電源を切ると初期設定に戻ります。

## MIDI設定一覧表

ボタン	機能	設定表示
	意味 [初期設定]	
PIANO1	MIDIチャンネル*1	C01 ~ C16
	1 ~ 16 [C01]	
	MIDIデータの送信チャンネルを設定します。	
PIANO2	ローカル・オン/オフ	on, oFF
	本機の音源の有効(オン)/無効(オフ) [on]	
	ローカル・オンでは、本機の鍵盤を弾くと演奏の音が鳴り、同時にMIDIデータを送信します。ローカル・オフでは、本機を弾いても演奏の音は鳴らず、MIDIデータだけを送信します。 通常はローカル・オン(初期設定: on)に設定します。エコーバックによる2重発音を避けるときは、無効(oFF)にします。	
E.PIANO1	PCフィルター *2	on, oFF
	プログラム・チェンジ送受信フィルターのオン、オフ [oFF: 送受信する]	
	本機からMIDIプログラム・チェンジ・ナンバーを送信し、接続したMIDI機器のプログラムを切り替えることができます。また、接続したMIDI機器からのMIDIプログラム・チェンジ・ナンバーを受信し、本機のプログラムを切り替えることができます。対応していないプログラム・チェンジ・ナンバーを受信しても、本機の音色は切り替わりません。	
E.PIANO2	CCフィルター	on, oFF
	コントロール・チェンジ送受信フィルターのオン、オフ [oFF: 送受信する]	
	本機のダンパー・ペダルなどの情報を接続した外部MIDI機器に送信してコントロールしたり、外部MIDI機器からこれらの情報を受信して本機をコントロールします。	
HARPSI/ CLAV	マルチ・ティンバー・オン/オフ	on, oFF
	16パート・マルチ・ティンバー音源として動作 [on: 動作する]	
	本機は、内蔵音源を外部MIDI機器からコントロールして鳴らすことができる16パート・マルチ・ティンバー音源として動作することができます。	

### \*1: MIDIチャンネル

レイヤー・モードではレイヤー 1の送信チャンネルになり、レイヤー 2の送信チャンネルは自動的に連続したチャンネルが割り当てられます。  
たとえば、レイヤー 1がC07の場合、レイヤー 2はC08、レイヤー 1がC16の場合、レイヤー 2はC01になります。

### \*2: 音色、プログラム・チェンジ・ナンバー対応表

CC0: 音色のバンクセレクト(MSB)はすべて121

音色ボタン	バンク	CC32	PC	音色
PIANO1	1	1	0	コンサート・ピアノ
	2	0	0	グランド・ピアノ
	3	2	0	ポップ・ピアノ
PIANO2	1	0	1	ジャズ・ピアノ
	2	0	3	ホンキートンク・ピアノ
	3	0	2	エレクトリック・グランド・ピアノ
E.PIANO1	1	0	4	ステージ・エレクトリック・ピアノ
	2	1	4	ブライト・エレクトリック・ピアノ
	3	3	4	トレモロ・エレクトリック・ピアノ
E.PIANO2	1	0	5	デジタル・エレクトリック・ピアノ1
	2	1	5	デジタル・エレクトリック・ピアノ2
	3	2	4	60's エレクトリック・ピアノ
HARPSI/ CLAV	1	0	6	ハーブシコード
	2	0	7	クラビ
	3	1	7	シン・クラビ
VIBES/ GUITAR	1	0	11	ビブラフォン
	2	0	12	マリンバ
	3	0	24	アコースティック・ギター
ORGAN1	1	0	16	ジャズ・オルガン1
	2	1	16	ジャズ・オルガン2
	3	0	17	ジャズ・オルガン3
ORGAN2	1	0	19	パイプ・オルガン1
	2	1	19	パイプ・オルガン2
	3	2	19	ポジティブ・オルガン
STRINGS	1	0	48	ストリングス
	2	0	50	シネマ・ストリングス
	3	1	50	アナログ・ストリングス
CHOIR	1	0	52	クワイア Aah
	2	1	52	ボイス Ooh
	3	2	52	クラシカル・クワイア

# 付録

## 故障かな？とお思いになる前に

ご使用中に問題が起こった場合は次の事項を確認してください。それでも本機が正しく動作しない場合は、コルグお客様相談窓口へお問い合わせください。

### 電源が入らない。

- ・ ACアダプターが本機とコンセントに正しく接続されていることを確認してください。

### 音が出ない。

- ・ 本機のVOLUMEツマミがMINになっていないか確認してください。MINになっていたら、適切なレベルまで音量をあげてください。
- ・ MIDIのローカル・コントロールがオフになっていないか確認してください。ローカル・コントロールがオフならば、オンにしてください。

### 音が途切れる。

- ・ 最大同時発音数を越えています。「最大発音数について」をご覧ください。

### 特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。

- ・ ピアノ音色では、ピアノ本体の音をできるかぎり忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合がありますが、本機の不良ではありません。

### 接続したMIDI機器が送信したMIDIデータに応答しない。

- ・ MIDIケーブルがすべて正しく接続されていることを確認してください。MIDI機器と同じチャンネルで、本機がMIDIデータを受信していることを確認してください。

### 最大発音数について

本機は前に鳴っている音を消して、後で押さえた音を優先的にならず仕組みになっているため、最大同時発音数を越えると音が切れてしまいます。本機の音色の中には1つの音色でも2つ以上のオシレーター（音源回路の1音分）から構成されている音色もあります。オシレーターが1つから構成されているVIBES/GUITARのバンク1や2などの音色は最大同時発音数が120音です。データが2つから構成されているPIANO1のバンク3やE.PIANO2のバンク1、2などの音色は最大同時発音数が60音です。

120÷音色オシレーター数＝使用可能最大発音数

レイヤーにして2つの音色を鳴らすとき、ダンパー・ペダルを使用するときなどは、最大同時発音数を考えて音色を上手に選んでください。

## 仕様

**鍵盤** RH3(リアル・ウェイテッド・ハンマー・アクション3) 鍵盤：88鍵(A0～C8)

**タッチ・コントロール** 5種類

**ピッチ** トランスポーズ、ファイン・チューニング

**音律** 9種類

**音源** ステレオPCM音源

**同時発音数** 120(最大)

**音色** 30(10×3バンク)

**エフェクト** ブリリアンス、リバーブ、コーラス(各3段階)

**デモ・ソング** 30(音色デモ・ソング10、ピアノ・ソング20)

**メトロノーム** テンポ、拍子、アクセント、音量、音色

**ペダル** ダンパー  
ハーフ・ペダル対応(DS-1H(オプション)使用時)

**接続端子** LINE OUT(L/MONO、R)端子、MIDI(IN、OUT)端子、ヘッドホン端子、DAMPER端子、DC 9V端子

**コントロール** 電源、ボリューム、ピアノ・ソング、トランスポーズ、ファンクション、タッチ、ブリリアンス、リバーブ、コーラス、バンク、音色×10、+、-、メトロノーム

**電源** DC 9V、ACアダプター（付属）

**消費電力** 1.5W

**外形寸法(W×D×H)**  
1327×263×128mm  
(突起物含む、譜面立て含まず)

**質量** 16kg

**付属品** ACアダプター、譜面立て、ダンパー・ペダル、取扱説明書

**オプション(別売)**  
キーボード・スタンドST-SV1、  
ダンパー・ペダルDS-1H

※ 仕様および外装は、改良のため予告なく変更することがあります。



# キーボード・スタンドST-SV1(別売)を 使用する場合

D1ではキーボード・スタンドST-SV1(型番ST-SV1 BK)(別売)を使用することができます。ST-SV1 BKの組み立て方法の手順8を、以下に示す内容に変更してお読みください。

2人でD1【A】を持って、ST-SV1【B】へのせます。

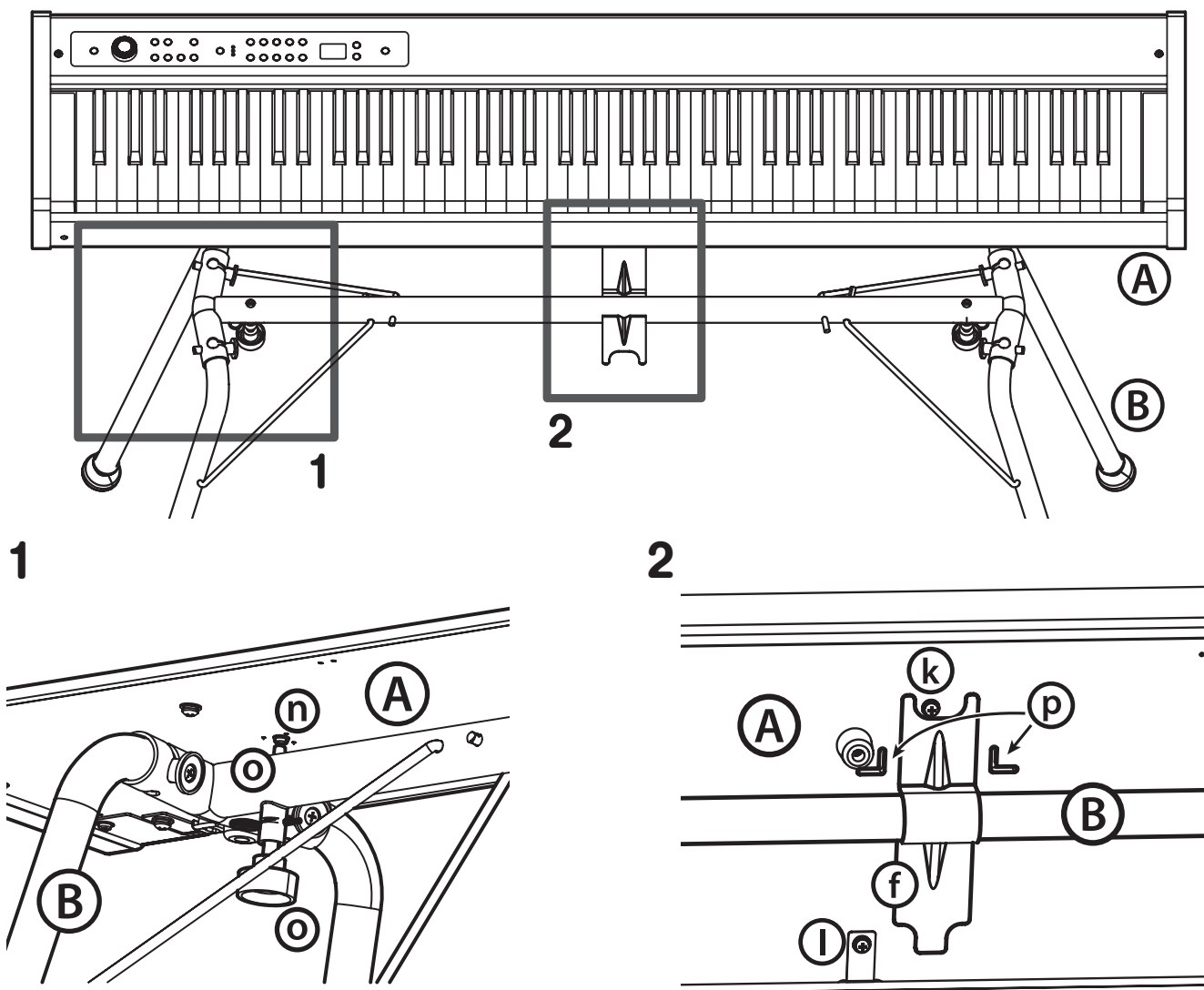
1人はD1が落下しないように支えます。そしてもう1人は、ST-SV1の左右にあるネジ【o】を、D1の底面にあるネジ穴【n】に合わせます。位置合わせの目安として、プレート【f】が、D1の底の中央にある2つの溝【p】の間に入るようにします。なお、D1の底の中央手前にあるネジ【k】と、中央奥にあるネジ【l】の頭がプレートに当たらないように注意してください。

ST-SV1の左右にあるネジ【o】を、D1の底面にあるネジ穴【n】に合わせ、ネジをしっかり締めて固定します。

▲ 付属のACアダプターは取り外して作業してください。

▲ D1をST-SV1の上へのせるときは、指を挟まないように十分に注意してください。

▲ 必ずD1をST-SV1に固定して使用してください。ST-SV1に固定しないと、D1が落下してお客様がけがをしたり、D1が破損したりする恐れがあります。



# MIDIインプリメンテーション・チャート

ファンクション…		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1-16	1 1-16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	× × *****	3 × ×	
ノート ナンバー	音域	3-125 *****	0-127 0-127	音色によって受信音域が異なる
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9n, v=1-127 × 8n, v=64	○ 9n, v=1-127 ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ○	
ピッチ・ベンド		×	○	
コントロール チェンジ	0, 32 1 5 6 7 10 11 38 64, 66, 67 65 71 72, 73 74 75, 76, 77, 78 91, 93 100, 101 120 121	○ × × × ○ × × × ○ × × × × × × × × × × ○	○ ○	バンク・セレクト (MSG, LSB) *1 モジュレーション *1 ポルタメント・タイム *1 データ・エントリ MSB *1 ボリューム *1 パン *1 エクスプレッション *1 データ・エントリ LSB *1 ダンパー、ソステヌート、ソフト *1 ポルタメント・オン/オフ *1 レゾナンス *1 EGタイム (リリース、アタック) *1 フライトネス *1 ディケイ・タイム、ピブラート・レイト、デプス、ディレイ *1 リバーブ・センド、コーラス・センド *1 RPN (LSB, MSB) *1 オール・サウンド・オフ *1 リセット・オール・コントロール *1
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○ 0-52 *****	○ 0-52 0-52	*1
エクスクルーシブ		○	○	*2
コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカル ON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× ○ ○ ×	○ ○ (123-127) ○ ×	*1 *1
備考 *1: MIDIフィルターをオフに設定したとき、送受信する。 *2: インクワイアリーとGMモード・オンを含む。 GMモード・オンは受信しますが、すべてのGM音色には対応していません。				

モード1: オムニ・オン、ポリ  
モード3: オムニ・オフ、ポリ

モード2: オムニ・オン、モノ  
モード4: オムニ・オフ、モノ

○: あり  
×: なし

MIDIインプリメンテーションの配布については、コルグ・ウェブサイトをご確認ください。



## 保証規定(必ずお読みください)

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類（ヘッドホンなど）は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はご購入日より1か年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有償となります。
  - ・消耗部品（電池、スピーカー、真空管、フェーダーなど）の交換。
  - ・お取り扱い方法が不適当のために生じた故障。
  - ・天災（火災、浸水等）によって生じた故障。
  - ・故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
  - ・不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
  - ・保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
  - ・本保証書の提示がない場合。

尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より3か月以内に限り無償修理いたします。

3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。  
This warranty is valid only in Japan.
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。詳しくは、お客様相談窓口までお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなる場合がありますので、あらかじめお客様相談窓口へご相談ください。発送にかかる費用は、お客様の負担とさせていただきます。
6. 修理中の代替品、商品の貸し出し等は、いかなる場合においても一切行っておりません。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損害につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

### ■ お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

コルグ D1

## 保証書

本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するものです。

お買い上げ日                      年                      月                      日

販売店名

## アフターサービス

### ■ 保証書

本製品には、保証書が添付されています。お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

### ■ 保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

### ■ 保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

### ■ 保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお客様相談窓口へお問い合わせください。

### ■ 修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みの上、もう一度ご確認ください。それでも異常があるときは、お客様相談窓口へお問い合わせください。

### ■ 修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

### ■ ご質問、ご相談について

修理または商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

#### WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。  
This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

### お客様相談窓口 0570-666-569

PHS等一部の電話ではご利用できません。固定電話または携帯電話からおかけください。

受付時間  
月曜～金曜 10:00～17:00（祝祭日、窓口休業日を除く）

- サービス・センター：  
〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-18-16 2F

**KORG** KORG INC.

4015-2 Yanokuchi, Inagi-City, Tokyo 206-0812 JAPAN

www.korg.com